

平成20(2008)年4月20日

### 第 37 号

発行人 世田谷稲門会  
 発行人 土倉 享 一  
 編集 寺島 邦利 夫  
 大原 明秀 次  
 江原 村内 彦  
 岩大 秀 行

事務局 〒157-0067  
 東京都世田谷区喜多見4-33-25  
 川村 保夫 方  
 TEL/FAX03-3417-7104

# 世田谷稲門会会報

軍事評論家 田岡俊次氏が講演

## 第十七回定時総会 五月二十四日(土) 開催



田岡俊次氏を招き、「日本周辺の軍事情勢」の演題で講演していただき、そのあと懇親会会場に移動する。

### 田岡俊次氏略歴

世田谷稲門会の第十七回定時総会は五月二十四日(土)午後五時から「こまばエミナース」で開催される。総会の詳細については、同封別紙の「第十七回定時総会のご案内」を参照ください。

当日ご出席いただけない場合は、委任状(返信用はがき)にご記名、ご捺印のうえご回答くださいますようお願いいたします。

総会終了後、早稲田大学来賓から一二五周年事業募金目標を達成した世田谷稲門会にゴールドフラッグが贈呈される予定。その後「講演会」および「懇親会」が行なわれる。

会費七千円。

第二部では軍事評論家で朝日ニューズスターコメンテーター田岡俊次氏をお招きし、「日本周辺の軍事情勢」の演題で講演していただき、そのあと懇親会会場に移動する。

田岡俊次氏略歴  
 一九四一年京都生まれ。六四年早稲田大学政経学部政治学科卒業。同年朝日新聞社入社、六八年東京本社社会部防衛庁担当。その後米ジョージタウン大学外交学部講師を経て、八二年朝日新聞編集委員(防衛担当)。八八年AERA副編集長に就任。九〇年朝日新聞編集委員を兼務。現在朝日ニューズスター(衛星TV)コメンテーター。

著書「自衛隊の戦力」「アメリカ海軍の全貌」「日本を囲む軍事力の構図」など。最新刊は「北朝鮮・中国はどれだけ怖いか」がある。

### 「理工100周年記念館」

大久保キャンパスにオープン

### —— 母校の今 —— 第11回

理工学部は、今年創設100周年を迎えるのを機に、理工系の教育・研究拠点を拡充すべく大久保キャンパス63号館・「理工100周年記念館(仮称)」を建設、間もなく開館する。

最先端のデザインと機能を有し、新生理工学部にふさわしいといわれる63号館は、地上7階・地下2階。設計・監理は久米設計事務所、施工を大林組・安藤建設・浅沼組建設共同企業体がそれぞれ担当する。建設自体はほぼ完成しているが、本格的な施設の供用が行われるのは、数ヵ月先になるようだ。

63号館の利用計画では、1階・情報ギャラリーと食堂、2階・大教室と会議室群、3階・コンピューター演習室、1階と4～7階は実験室や研究室だという。

また大教室の屋根には緑化を施し、メディアセンターリフレッシュラウンジや上層階研究室から緑を望むことができると同時に、建物の断熱性を高めるなど環境にも配慮している。さらに500規模のコンピュータールームはオープンなガラス間仕切りにより、将来の利用シーンにあわせて可変できるようになっている。

なお、1階の食堂は4月1日にオープンしたが、この食堂には486席が用意されているという。

創設100周年を迎えた早稲田理工は着実に発展し、そしてさらに進化する。  
(大内 秀行/記・撮影)



(大久保キャンパス63号館)



# 映画と応援ショーを楽しむ 新春懇親会開催



世田谷稲門会新春懇親会は一月二十六日(土)午後四時から「こまばエミナース」で開催した。今年は史上最多の百二十七人の会員とゲスト九名が出席、映画上映と早大応援部チアリーダーの演技で大

第一部は早稲田大学創立百二十五周年の記念企画として東映映画「早稲田大



学」(昭和二十八年、尾崎士郎原作・佐伯清監督)を上映。映画は明治十五年の「東京専門学校」設立から大正六年の学校騒

動、大隈総長の死去、戦争・学徒出陣、敗戦後の早大事件などまで大学の苦節と発展の歴史を再現し、その時代を背景にした親子二代の早大生の学究生活とロマンスが描かれる。

の母校の近況報告などのあと、早大応援部による華やかな応援ショーが展開された。男性応援部員二名と女性チアリーダー四名が「紺碧の空」「精悍若き」「永遠なるみどり」などの応援歌と澆刺とした演技を披露、満場の喝采を浴びた。最後は応援部員のリードで校歌を全員で斉唱し新年会を締めくくった。

## 東京都二十三区支部大会開催

東京都二十三区支部大会は三月二十一日(金)午後六時からリーガロイヤルホテル東京で二九〇名の校友が出席して開催された。世田谷稲門会からも土倉会長以下十九名が参加。

講演者の森喜朗元首相が若干遅れたため、その間を瀬古俊彦日本陸上連盟理事がつなぎの講演をするなどハプニングもあったが、一二五周年行事が成功裏に終わったあとでもあり大変盛り上がった大会になった。なお〇八年度・東京都二十三



区支部の第六代支部長に墨田区稲門会会長の立岡幸夫氏が四月十五日付けで就任した。

## 春季代議員会開催

今年度の春季代議員会は三月八日(土)午後四時から大隈講堂で開催された。最初に白井克彦会長から一二五周年記念行事など活動状況・方針についての挨拶があり、続いて瀬下明代表幹事が議長となり記念行事など〇七年度の活動報告ならびに経常収支決算見直し、〇八年度の予算の報告があった。

また校友会組織の見直しと再構築について、推薦校友候補者承認の件などの協議事項と賛助代議員記念品贈呈、代議員支部長等の異動、〇八年度稲門祭の件などの報告事項があった。その後大隈ガーデンハウスに移動して懇親会が催された。



## 部会だより

### スポーツ観戦

昨年12月3日、国立競技場で第83回伝統のラグビー早明戦を40名が参加して観戦しました。試合に勝利した方が対抗戦グループ優勝という一戦でした。試合は立ち上がり先制トライを許し、明治はこれまでと違う戦いを挑んできましたが、早稲田は直ちに修正して積極的な攻撃を展開し、早大71対明治7の歴史的な圧勝でした。64点差は史上最多で7年連続の優勝でした。重戦車といわれる明治のスクラムを抑え込み、本来のオープン攻撃が爆発した試合でした。その後も当部観戦外で大学選手権は、明治を破って決勝に進出した慶大と戦い、雨中の激戦を26対6で勝利し、2年連続大学日本一に輝いたシーズンでした。



追記 その他のスポーツも復活した強い早稲田が箱根駅伝では12年ぶりに往路優勝と総合2位と健闘し、またサッカーも大学日本一になり、野球に続いて輝いた素晴らしい年でした。

(岸田 正和/記)

### ボウリング

当部会は原則として毎月1回、渋谷稲門会と合同で例会を開催。世田谷オークラボウルはレーン数も多く、空調完備の広々とした快適な環境で、談笑し声援を送りながら投球を楽しんでおります。最近の活動実績は次の通りです。

**12月23日(日)** 参加者12名。158点地引功一、153点天野善弘、116点峰本俊一  
初参加の地引さんが尻上がりに昔の感覚を取り戻して最高点を出したのにはびっくり!! 天野さんもスピード、制球力抜群の投球で高得点。峰本さん久しぶりの参加で大健闘。1月は後半の日曜日が団体貸切のため予約を取れず、やむなく休会。

**2月3日(日)** 参加者7名。151点佐山順孝、126点武藤哲  
佐山さん絶妙のコントロールで6連続ストライク、5スペアを連発しての投球はお見事!!  
ボウリングは経験のない高齢者の方でも気軽に始められるスポーツです。足腰を強くして老化防止、適度の運動による健康増進、ピンを倒した爽快感からのストレス解消等メリット沢山。終了後、昼食を共にしながら四方山話に花を咲かせるのも楽しいものです。ご参加をお待ちしております。

(武藤 哲/記)

### 釣 り

東京23区稲門会には当会以外釣り部が無いようなので、最近他区稲門会からの入部者が増え32名の大所帯となった。部員が増えたことで仕立船が取りやすくなった。

**11月24日** 初めての西伊豆戸田港から岩隈氏なじみのふじ丸より真鯛ねらいで出漁。当日は無風快晴の釣り日和。駿河湾から見る富士山は青空の空中に浮かんでいるようで絶景であった。釣果は40センチ級の丸々太った平そうだ鯉(美味)に邪魔され鯛は船中2枚であったが、いなだを含めそうだ鯉で土産十分であった。6名参加。夜は岩隈氏なじみの民宿いおりで地元海鮮料理を満喫。

**1月19日** 茅ヶ崎沖右工門丸よりきす釣りと鯛釣りに出漁。国沢氏55匹、他に釣れたきすを食べたひらめ2枚。5名参加。

**1月28日** 部員吉村氏経営の飯田橋海老専門にて21名参加の新年会。海老中心の中華料理を堪能、釣り談義で盛り上がる。

3月から解禁の溪流釣りは、1日は釣り師多く不漁であったが、16日は41センチの岩魚、31センチのさつき鱒を釣った。

**3月18日** 初めての幹事会を開催。来年度行事予定及び各幹事の役割分担を決めた。沖船釣りは岩隈主幹事、国沢従幹事、川・湖沼近堂幹事、磯・堤防寺島幹事、溪流柴田幹事、会計国沢幹事と決まった。

今後の予定。

**4月29日** 西伊豆土肥港 とびしま丸より大鯛釣り。

**5月 6日** 松輪港 浜鈴丸より鯛五目釣り

**5月11日** 茅ヶ崎港 沖右衛門丸よりキス釣り

(柴田 昇/記)





## 食べ歩き

(1)12月7日、第34回例会を開催。参加者21名。今回は新宿の京王プラザホテル内「南国」で広東料理と紹興酒(古越龍山8年の銘酒)の美味を堪能した。「食は広州にあり」といわれるように広東料理は広大な中国の中でも最も食材に恵まれた地域に生まれてだけあって、変化に富んだ味わいを楽しむことができた。初参加の石井孝之氏(昭和30商)の自己紹介のあと、大須賀代表世話人の挨拶並びに会務報告、鈴木幹事長の早大125周年記念行事や稲門祭福引券の当選者名等の報告や協賛に対する謝辞があった。岩上氏の乾杯発声で開宴。会員各位の近況報告等を織り交ぜた話題提供が続き、会場の雰囲気は最高に盛り上がった。柏さんの中締めの挨拶で次回「花蝶」での再会を約し名残を惜しみつつ散会。紅葉から落葉へと移ろう師走の新宿中央公園の森を眺めつつ西新宿を後にした。



(2)部会内規第5項有志世話人会による会。

11月11日(日)、「東京競馬場(府中)での昼食会及び競馬観戦の会」を開催。参加者29名。平成19年4月に東京競馬場が8年かけた改修工事を終えてグランドオープンし、新設されたフジビュースタンド貴賓室で昼食会を兼ねた競馬観戦会を行った。昼食会では各自様々な会話を楽しみ情報を交換し合った。昼食後はライブでなくては味わえない迫力あるレースを観戦し、興奮と感動を満喫できた。生憎の曇り空で富士山は眺められなかったが、周辺の木立の紅葉と黄葉が前夜来の雨にしっかりと色合いを織りなし見事な景観を呈している様子を眺めながら悦楽のひとつ時を過ごすことができた。



(大須賀 肇/記)

## 囲碁将棋

### 湯河原「杉の宿」合宿

3月2日午前10時に成城に集まり湯河原に出発。総勢8名。東京は連日の底冷えのする寒さだったが、湯河原は春の陽気で梅も6分咲き。折から梅祭りの真っ盛り。杉の宿は梅祭りの会場の途次にあるため、道も狭く、車の混雑もかなりのものだ。道が一本しかないのでやむなく途中でタクシーを降り、ひたすら歩く。坂道を30分程度登りようやく宿へ。早速囲碁を打ち始める。ひとわたり打ち進み、区切りのよい頃を見計らって風呂へ。別棟の5階の露天風呂から通りをみれば、タクシーが数珠繋ぎ。梅見の人もぞろぞろ歩いている。かなりの人出の賑わい。風呂から上がり、また碁戦に加わる。今日は斉藤さんの調子がいい。やがて4局打ち終わり、ふと窓の外を見ると、既に夜のとばりが立ちこめている。やがて、夕食。久し振りの海の幸の舟盛りが食前に並ぶ。酒がうまい。至福のひとつ。話に花が咲き、和わらいだひとつ時を迎える。食と酒が進むにつれ舌もおのずと滑らかになる。次はカラオケの出番。部屋を変えてカラオケルームへ。歌にも興がのる。ここにも酒が出る。2時間があっという間に終わり、又も碁盤にかじりつく。時間が飛ぶ。睡眠を削り、碁戦に没頭し一日がやっと終わる。翌朝も朝から碁三昧。ようやく朝食。それから梅見へ。時間に無駄がない。昼迄打ち興じ昼食後、碁キチ達はようやく杉の宿を後にした。

(矢田 廣/記)

### オール早稲田将棋祭

3月8日、第3回オール早稲田将棋祭を新学生会館にて蛸島彰子女流五段プロをお招きし、ABのクラス22名の校友が参加し、4回戦対局により開催した。世田谷稲門会からは守屋寧夫氏、薄井好雄氏、柴田の3名参加。薄井氏がBクラスで優勝、小生二枚落ちて蛸島プロに勝利した。世田谷稲門会は会員数多いが、将棋愛好者を申し出る方が少ないので、是非参加を申し出て下さい。現在勉強会は毎月開催の新宿稲門会将楽会に参加させてもらっている。

(柴田 昇/記)





## カラオケ

カラオケ部会の新年会を昨年と同様、梅が丘のスナックSpace「SS」を借り切って1月20日(土)正午から行いました。例年、王監督の早稲田実業OBの新年会が行われるので、日取りをママに調整してもらいました。当日は美登利寿司の特上にぎり茶碗蒸しを取り寄せ、お好みの飲み物は飲み放題。歌謡界の大御所大月みやこさんも美登利寿司で食事をした後、時々「SS」でカラオケを楽しむそうです。

新年会は桜木さんの音頭で乾杯、総勢25名(女性4名)の熱演が開始されました。寺井さんの「群青」、柏さんの「哀愁波止場」など聴く人の心を揺さぶる感動を与える歌も数々ありました。区議の西村さんの「河内おとこ節」、犀川さんの「東京ブギウギ」、縞の合羽に三度笠、脇差一本の渡世人に扮した小生の「伊豆の渡り鳥」などで大いに盛り上がり、デュエットタイムでは薄井さんとママの「麦畑」が抱腹絶倒をよびました。途中プロ歌手のママ(歌手名水島のぶこ)の迫力ある演歌「たてがみ」に圧倒されました。各人2曲ずつ歌い、最後に校歌を斉唱、盛会のうちに予定通り5時半に幕を閉じました。なお、内藤ご夫妻が天候の都合でお見えになれなかったのが非常に残念でした。

(清水 明雄/記)

## ウォーキング

3月のウォーキングは世田谷区内にしては珍しい溪谷、湧き水、数多くの古墳に囲まれた、起伏に富む歴史の古道(思いはせの路)をがんばって歩き、20名全員4時半には二子玉川駅に到着しました。4月は13日(日)午後1時に小田急線黒川駅に集合。黒川野外センター～真光寺公園～尾根道～サッカーグラウンド～粟平駅～黒川駅のコース、5キロを3時間かけて歩き、そのあと午後5時から「鮮の庄」狛江店にて総会を開きました。

なお、5月のスケジュールをご案内致しますので、興味のある方は参加してみてください。

連絡先 江原利次 電話/FAX: 5760-7118

5月11日(日) JR南船橋駅 午後1時集合: 谷津干潟(野鳥観察)～谷津バラ園 5キロ3時間。

(江原 利次/記)



## ゴルフ

梅祭り、桜の開花予想、スギ花粉・黄砂の飛来等春を告げる話題が豊富に聞ける今日此の頃となりましたが、女子の人気に負うところが大きであったゴルフ界も、今年は「はにかみ王子」石川遼君(弱冠16歳)のプロ転向により、男子ゴルフ界も大いに盛り上がるものと予想されます。当ゴルフ部会も昨年50回記念大会を開催、更にはグラウンド・シニア(75歳以上)の部を新設し一段と燃えています。

さて、本年度も下記の通り4回にわたりコンペ開催を企画し、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

芝生もやっと春の芽吹きを始めており、開幕第1戦の中津川CCでは満開の桜のもとに、緑の絨毯上で腕を競い合えるものと期待しています。

現在当部会の会員は96名を数えますが、ゴルフを楽しみたいと思われる方は大歓迎をいたします。入会は随時受け付けておりますので連絡をお待ちしております。

本年のコンペ開催スケジュールは次の通り計画しておりますので、今から予定に組み入れていただくようお願いいたします。

### 開催日程

第55回 6月13日(金)大月CC

第56回 9月中旬 ファイブハンドレッド C 予定

第57回 11月中旬 飯能GC

(熊谷 慶紀/記)

## 麻雀

1. 12月15日(日) 晴天なれど木枯らしの吹く一日、祖師谷大蔵の麻雀荘「天狗」(以下会場記載無き場合は同荘)に来年の武運を確かめるべく30名の紳士淑女が集い卓を囲んだ。試合は初日の▲に奮起し2回戦(+61)、3回戦(+41)と大量得点を叩き出した阿部氏が2位以下に大きな差をつけ久し振りに優勝した。優勝・阿部信之、準優勝・有利純太郎、3位・河村卓郎、4位・沼田宣子、5位・寺澤隆夫、6位・江口力

2. 1月20日(日) 小春日和に恵まれ、1年の運を占うべく28名の善男善女が卓を囲んだ。試合は世相を反映し二極分解となり、初回から快調にとばした高橋氏が必死に追いつがる秋元氏を僅差で下し優勝を遂げた。優勝・高橋毅、準優勝・秋元孝禧、3位・郡山弘文、4位・長谷川義樹、5位・国澤俊一、6位・脇坂元彦

3. 2月16日(土) ポカポカ暖冬に恵まれた一日、歴戦の猛者24名が集い腕を競った。試合は最終回までもつれ混戦の中、経験豊富な蔭山氏が辛勝した。優勝・蔭山康夫、準優勝・阿部信之、3位・上保幸夫、4位・郡山弘文、5位・磯田稔、6位・脇坂元彦

4. 3月16日(日) 暖冬に恵まれ26名の腕と口自慢の善人が技を競った。試合は老練な蔭山氏が必死で追いつがる有利氏を僅差で下し連覇した。優勝・蔭山康夫、準優勝・有利純太郎、3位・上保康夫、4位・橋本大道、5位・能俊彦、6位・奥田隆

当部では男女の参加を求めています。関心のある方は代表世話人下谷内堯(携帯080-5540-0245)までご連絡ください。  
(下谷内 堯/記)

## ブロック会だより

### 玉川

例年、玉川会の新年会は2月初旬に開催されますが、今年の2月3日は、久しぶりに雪の降る日曜日でした。それでも、本部の麻生・岩上両副会長にもご出席いただき、会員のご夫人方9名の参加を得て、これまでの最多の31名が奥沢5丁目のフレンチレストラン「フランネル」に集合し、外の天気とは反対に暖かい華やかな雰囲気の中で、開始前から早くも会話が弾んでいました。世話人の井澤さんの司会で開会し、代表世話人浜田さんの挨拶、郡山さんの音頭による乾杯、次々と運ばれるシェフご自慢の料理とワインを味わい、後半は席替えをして新年初顔合わせとグルメを楽しみました。また、玉川会の今年度の諸行事について、それぞれ担当の世話人から愛唱歌の会、カラオケ会、グルメ会、ゴルフ会、競馬観戦会の予定等が発表され、ますます活発な活動が期待されました。

(小山田 安宏/記)

## きぬた

当会は昨年11月30日(金)午後6時より砧図書館にて NHK放送技術研究所システム部長・野本俊裕氏(工博)による「放送技術の昨日・今日・明日」という講演会を催しました。同氏は昭和52年理工学部大学院電気工学修了の同窓生です。歳末に近く天気も良くなかったためか、出席者が15名に足らず残念でしたが、野本氏からは1時間を越える熱心なスピーチを頂き、現在の「映像メディア」の発展の陰に、多くの試行錯誤があったことを改めて確認することができました。講演後、成城のレストランで「懇親会」に移り、現在の研究について伺うことができました。

走査線4,000本の「超・高精細度」のモニター(受像機)とか、3D(立体)映像といった進歩して行くハードウェアのお話を聞くと、その一方でソフト(番組)の貧困さに厭でも気付かずにはいられません。我々視聴者も番組内容について、もっと「声」を上げなければいけないのではないかと感じた一夕でした。次回は暖かくなる春を迎えて開催したいと考えています。  
(吉村 豪介/記)





## キャロット

キャロット会は2月23日に世話人会を開催し、今年度は下記の催しを開催することに決定致しました。

1. 6月7日(土)午後2時～4時まで三軒茶屋のStage p.f で音楽会を開催します。

会員の花田玲子さんのシャンソンを中心に備え付けの楽器(ピアノからドラム、和楽器まで)を使って演奏や唄を楽しみたいと思います。世田谷稲門会の会員の方で腕に覚えのある方の演奏を歓迎します。この音楽会を毎年恒例にして、いずれ「世田谷パブリックシアター」での演奏会が実現できたらと思います。乞うご期待!

2. 11月29日(土)午後6時から忘年会を開催します(場所未定)。若手(二つ目)の落語家を呼んで一席演じて貰い、あとは対談、打ち上げ。今は落語ブーム、噺家さんから直に話を聞くのも楽しいと思います。世田谷稲門会の会員の方の出席も歓迎しますので、キャロット会世話役までお知らせ下さい。

(富塚 兆弥/記)

## さくら

2月17日(日)11時30分、本部より鈴木幹事長、岩上副会長の参加を得て桜新町のイタリアンレストラン「ラピアンタ」にて第24回さくら会懇親会を開催した。参加者25名。最近のさくら会の参加者としては多い方である。鈴木、岩上の両氏より、早稲田大学125周年記念についての近況報告があった後、さくら会の議題に入る。『我が人生を語ろう』がテーマで、各人の今までやってきたこと、今もやっていること、今後もやりたいこと、年配の方が多いため健康のこと、海外旅行のこと、最近の世相、今年の景気、政治のこと、趣味でも、過去の仕事でも、その他何でも結構。人生色々なので、それぞれの生き様の一端を吐露して頂ければお互いに親しみも増すのではないかという狙いです。前回の中瀬正一氏と前原祖彦氏に語って頂きました。そして、それが大変好評だったので、今後とも高齢者の順に、『我が人生を語る』を取りあげていきたいと思っております。

今回は関根昌一氏と上田忠雄氏にお願い致しました。関根氏からは戦争中のいろんな思い出、終戦時の混乱した世相を、上田氏からは終戦後の早稲田学院、大学の入学試験等を含めて、戦後の混乱した世相、大学の状況等を交えて熱っぽく語って頂きました。どれも体験に基づくお話なので、参加者それぞれの青春時代の思い出とも重なり合い大変参考になったと思います。語ることに由り懇親会に積極的に参加する意欲がかきたえられると思います。この他、荒井監査人より会計監査報告があり、江原世話人より俳句の会の近況報告があった。

(矢田 廣/記)



## 西 北

恒例の初詣を、矢島先輩(昭28法)が宮司をされている北澤八幡神社に1月7日に有志でお参りし、西北会の繁栄と会員の皆様のご健勝を祈願いたしました。矢島宮司より平成20年戊子年のお話をお伺いし、お土産にお守りと「郷土を知ろう あなたの町の鎮守さま」という小冊子を頂きました。今年一年がきっと良い年なるという希望を胸に、お参り後近くの蕎麦屋で大変美味な鴨鍋を食しながら懇談いたしました。締めは勿論手打ち蕎麦でした。来年参加ご希望の方は世話人までご連絡下さい。

**訃報** 何時もお元気で西北会の催しにご参加いただいていた、後醍院良一氏(昭27法)が2月11日逝去されました。学生時代に渋谷の安藤組組長に可愛がられた話、後醍院家二十一代目の話など懐かしく思い出されます。享年78歳、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(松浦 晋三郎/記)



# 千 歳

昨年12月10日(月)、第10回目の千歳会を開催。今回は新しい企画として夕食懇談会の前に「永田町見学会」を実施。13時に地下鉄「国会議事堂前」駅に集合、参加者7名。国会前庭を經由して黄色く色付いた銀杏並木を見ながら尾崎行雄記念碑を見学。「憲政記念館」に入館して約1時間、議会の歴史など諸展示物を自由見学。終わって最高裁判所に移動、係員から裁判制度に関する諸々の説明を聞いた後、建物の内部を見学、その豪華さに感嘆。大法廷に入場してその広大さと荘厳さにまた驚嘆!!

見学会終了後、京王線下高井戸駅近くの懇親会場、居酒屋「たつみ本店」に移動。懇親会は17時30分～20時、出席者15名。今回は2名の初参加、紅一点の篠崎章子さん(昭52年政経)、区議初当選の西村准也さん(平17年商)を迎え、和洋折衷の料理にお好みの和洋酒、ワインなどで杯を交わしながらの楽しい談笑。あわせて各人3～4分での自己紹介、趣味娯楽、スポーツ、健康法などのスピーチ。鈴木世話人から125周年記念事業、稲門祭に関する諸々の報告などで予定の2時間を経過し、蒲原幹事の閉会の挨拶、次回の元気な再会を約して散会した。

(武藤 哲/記)

## 会員の広場

「なんとって、自分が一番面白い」

(息子への遺言)

東 直彦

(昭和四一年理工)



毎月千人以上の方々に川柳を十句づつ何年もメールし続けています。そのやりとりの中で「建築家としてお客様や社会の方々に喜んでいただける作品を求めて精進し続ける事が私の使命と考えると同時に、たとえ功成り遂げられない人生でも、建築空間のみならず声楽や川柳、折画帖等の自己表現を通じて自分を昂め続けることも悔いのない人生と考えるに至りました。又いつか何処かで「一合一餌」しましょう」とりメールしています。

高校の頃F.Lライトの帝国ホテルや前川国男の東京文化

会館に感動し、早大建築学科を卒業後東大の大谷幸夫先生に師事し、三十才で国際コンペの入賞賞金で独立し建築作品を創り続け五十才を迎える頃、ふと「私の魂の宿る作品は一生出来そうもない」と悟るようになりました。

その為大学や建築家協会等でやっていた公職や地域のボランティア活動等を退き、良い建築作品をつくる事が世に役立つ早道と気がつき、

思いが自己研鑽と表現に向って行き、やがて声楽家、川柳作家、折画帖家、ユーモア研究家や司会等と私なりの方法を見出し、他人が苦笑する程に真剣に我が身と心を傷つけながら、魂の宿る表現に向う日々となりました。それらの表現の結果の総てが芸術であるとはとても言えませんが、人間の本質を観て発露することを目的とし、趣味とは全く違った世界です。

声楽に関しては現在日本で唯一のクラシックの発声でカントオーネを歌うテノール歌手です。毎夜の練習と週一のレッスンは欠かせません。計百五十回を超えた毎月一回のコン

サート活動と年一回のナポリとサントローホールでのソリリサイトを十八回続けています。今年は九月六日(土)の夜でサントローホールです。

川柳は年約十句づつくり、夢魂川柳集五百句を四巻迄上梓しました。メールいただければ毎月新作十句お裾分けします。又家元東柳として川柳の楽しさや江戸古川柳の講演を年何回か続けております。

死を恐れ人は文化と子をつくり製紙業再生できるか紙一重いつか見むあなたの心の活断層どうせなら眉まで染めて移民してうちの孫だけが可愛い訳は無いド忘れし レミファン忘れ 死も忘れ粗大ごみリサイクルされてボランティア携帯が切ればさめる程の恋子に埋れ保母さん昼寝片目だけ生れ逝くただそれだけの怖ろしさ

折画帖とは縦二十糎横八米の和紙を折り畳んだもので、一冊一作品として自由闊達に筆とソフトパステルで左から右に時間を描き、世界中の旅のスケッチと文を約四十冊描き溜め、時折展覧会をしています。



建築空間やその他の表現を通じて一番楽しいことは「自分とは何か、人間とは何か」が「一瞬解った」と思え、又「不明に陥り」、その繰り返しの日々を生々悶々と送ることです。

なんたつて、自分が一番面白いんですから。  
higaship@apricot.ocn.ne.jp  
http://www.higaship.com

### 歴史のひとじま

一九三三年七月一日

上田 忠雄  
(昭和二六年理工)



ここに銀製のキーホルダーがある。縦三・五センチ横二・五センチ厚さ一・五センチの小さなものだが、その表の面には鉄塔に複数の投光機が並び、星空に煌々と光を投げかけ、下には稲穂とボールとWの字が描かれ、裏面には「祝早稲田大学野球場 夜間照明完成記念一九三三」と刻印されている。

私の父輝雄が生前大事に身に付けていた遺品の一つである。当時、どんなことが行われたのであろうか。「早稲田野球場五〇年史」「早稲田八〇年誌」そして「マツダ新報二〇年史」などから当時の様子を探ってみた。以下にその概略を紹介したいと思う。

前年の一九三二年(昭和七年)の早稲田大学創立五十周年を期して、記念事業の一つとして夜間でも野球が出来るようにと戸塚球場(後の安部球場)に照明設備を設置することを、当時の電気工学科教授で体育会長でもあった山本忠興先生が発案し、電気工学科の手によって完成し、一九三三年七月一日に日本で初めて夜間照明下での野球、今言うナイター野球が行われたのである。



あり、わが国において未曾有の新設備である。この日午後六時から開場式があり、体育会長山本忠興の経過報告、田中穂積総長などの祝辞の後、理工学部教授上田輝雄の手によってスイッチを入れ点灯、観衆は昼をあざむく壮観にしばし喚起と拍手、しばらくして鳩山一郎文部大臣の始球式によって、第二軍対新人の野球戦が行われた。実にわが国ナイターのトップを切るものであり、当夜の盛況は往時の早慶戦を想わせるものがあった。午後七時三〇分には早くも門扉を閉鎖して観衆は場に溢れ、入場を断れた人波はしばらく一般の通交を阻むほどであった。試合は七回戦九対四で第二軍の勝ちとなり九時三〇分式を閉じた」とある。

またその照明設備は「約一万四千七百平方尺(神宮球場よりやや広い)のグラウンドを囲む高さ三〇尺の鉄塔六本には一五六基の投光機を設け、総燭光数は実に一七一六万燭光(ワット)であった」。そして「総工費は約六万円、当時の電燈料で二時間約二五円、一試合七五円、球場使用量は大体一〇〇円というところであつ

た」とも記されている。また別の資料には「既に昭和六年六月三〇日にテレビジョンを試作された山本博士は、この日の夜間野球を実況放送し、早大実験室の受像機に放映した」とも記録されている。今日のテレビによるナイター中継を



初の夜間試合

しかしその後日本全体が段々と戦時体制に突入し、一九三七年(昭和十二年)には国防法の強化により燈火管制が施行され、夜間照明などは禁止、さらに一九四三年(昭和十八年)には、軍需物質の不足から強制的に鉄材や銅材は撤去・供出され、座席の鉄枠は取り外され、夜間照明設備も解体されて無残な姿となつてしまつた。僅か一〇年にして施設は完全に失われてしまつたのである。

付記 この記事を執筆するに当たり「早稲田大学野球場五〇年史」「早稲田七〇、八〇年誌」「早稲田一〇〇年史」「マツダ新報二〇年史」、そして当時の新聞など部分的に参考また引用させていただきました。関係各位に厚くお礼を申し上げます。

初めて行つた日でもある。以上が一九三三年七月一日の出来事である。今年七月一日を迎えると丁度数えて七五年目となる。実に早稲田大学一二五年の歴史の中のひとこまであつたのである。



## 新入会・退会・休会の正誤及び住所移転等のお知らせ

「名簿（平成18年4月発行）・会報35号記載分」以降（敬称略）・会報36号記載分」以降（敬称略）

（新入会員）

氏名	卒年学部	郵便番号	住所	電話	FAX
薄井 好雄	昭47 商				
橋口 勲	昭41 商				
橋口 直子	昭43 文				
地引 功一	昭43 政経				
大胡 誠	平08 法				
溝上 英男	昭23 法				
中山 大平	昭40 法				
菊田 顕義	平17 商				
宮地 尚利	昭40 法				

個人情報につき不掲載

（退会会員）

後醍院良一	昭27 法	
-------	-------	--

（休会会員）

山根 基世	昭46 文	
-------	-------	--

世田谷稲門会15年のあゆみ・訂正事項

写真説明 (正)白井克彦総長 (誤)白石克彦総長  
 " (正)内藤隆福氏 (誤)内藤隆富氏  
 P13 (正)下条忠雄 (誤)下条忠男



## 編集後記

早稲田が大きく動いています。ひと頃、「慶応に些か遅れを取っているかな」とヤキモキしたこともありました。しかし、『母校の今』の取材を通じ、動き出した早稲田の姿を目の当たりにすることができ、その感を強くしています。例えば、東京女子医大との提携による最先端医療の研究・教育の目的で河田町キャンパスが4月に創設されました。母校のこんな新しい動きを順次紹介してゆきますので、よろしく!

(大内 秀行)

4月の訪れを告げる満開の桜に遅れまいと、世田谷中が百花繚乱の花々で私達を迎えてくれる季節となりました。

我が稲門会の皆様も春の息吹を体一杯に吸い込み、この会報を活用しながら早稲田OBとしての楽しい人生を送られるよう願っています。

(江原 利次)

ブロック会や部会だよりなどの原稿を読ませて頂いて、それぞれ活発に楽しそうに会合されている様子がうかがえます。他区の稲門会の実情は知りませんが、これほど多種多様な活動をしている稲門会は少ないのではないのでしょうか。そうした交流がさらに広がるよう、会報がその一助になれば、と願っています。会員に伝えたい情報やアイデアがありましたら、気軽に声をかけてください。

(岩村 明彦)

会報を担当して4年が経ちました。編集委員にも強力な方が加わり内容も充実してきたように感じます。

創立125周年をきっかけに大学も変化してきていることがこの会報からもわかります。

今年から卒業生は全員10年分の校友会費を納めるそうです。

稲門会活動と校友会活動との関係はよく判らないところがありますが、少しずつ影響がでてくるのでしょうか。

(寺島 邦夫)